

南半球便り (その 39) : オーストラリア英語

10 月 8 日

10 月になりました。豪州に着任して 9 ヶ月が過ぎた今、日本に居た時に抱いていたイメージが如何にいい加減であったか悟ることがあります。そのひとつが、オーストラリア英語です。

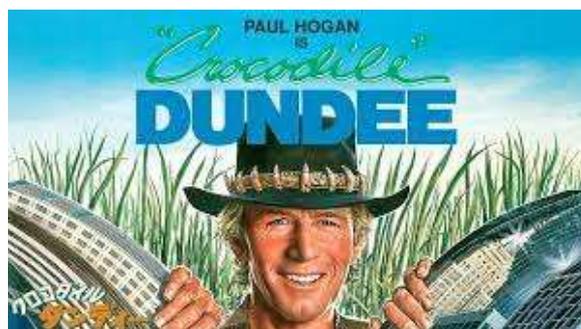
1. 訛りなし!

日本では豪州に行くというと、「英語，訛っているんでしょ。」としたり顔で言う御仁が後を絶ちません。語学が武器の筈の外務省員でもそうです。これまでの私の経験では、打破すべき偏見のように思えます。

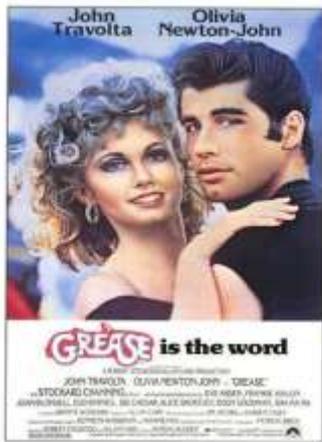
私のヒアリング能力の限界によるところもあるでしょう。しかしながら、キャンベラで仕事をし、また各州を回ってみて、「訛っているな。」と感じたことは殆どありません。むしろ、その昔、留学中のニューヨークで Fワードをふんだんにまぶした機関銃のような早口にさらされたことや、ロンドン在勤中に下町訛り（コクニー）やスコットランド訛りの洗礼を受け、聞き取れた単語は「bloody」だけだったことなどを思い返せば、日本人にとっては遙かに分かりやすい英語を話してくれるのがオージーです。

2. 偏見の源

「訛り」の印象は、映画「クロコダイル・ダンディー」の影響が大きいのではないのでしょうか。豪州では挨拶が「ハロー」「ハイ」ではなくて「グッド・ダイ」(Good day) などという、俗耳に入り易いガイドブックの記述も、淵源の一つはこの映画であるように思われます。でも、当地で散歩やサイクリングをしていて、すれ違う人から「グッド・デイ」と言われたことはあっても、「グッド・ダイ」はまずありません。



映画「クロコダイル・ダンディー」
(リムファイアー・フィルム)
(出典：dTV ホームページ)



映画「グリース (1978年)」(パラマウント映画)でも歌声が響く
(出典:ファンダム)

そう言えば、10代の頃、英語を学ぶ関心のきっかけは、オリビア・ニュートン・ジョンの明るく透き通った歌声でした。彼女の「カントリー・ロード」の方がジョン・デンバーの唄うそれよりも聞き取りやすかったことを覚えています。

3. 味わい深い表現

生活をしていると、豪州ならではの面白い表現を学ぶことがあります。

私が気に入っているのは、「Teaching Grandma to suck eggs」(釈迦に説法)です。クイーンズランドで聞いた「Let's sink a tinny of Gold.」(「ゴールドビール」(同地のビールの銘柄)を飲み干そう。)というのも、なかなかおつな表現でした。

4. いらっしやい、豪州の大学へ

だから、心配いりません。日本の若者は豪州で正統派の綺麗な英語を身につけることができるのです。留学先として、豪州国立大学 (ANU)、シドニー大学、メルボルン大学など、名だたる名門校が揃っているのも魅力でしょう。



豪州指折りの名門校の一つ「シドニー大学」

この関連で、要注意は、英米の格付け会社が発表する大学ランキング。それらの評価基準では、大抵、オックスブリッジやアイビーリーグの大学が高く評価されていて、日本や豪州の大学が存外に低い評価を受けてきています。

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション誌による世界の大学ランキング

順位	大学名	順位	大学名
1	オックスフォード大学	33	メルボルン大学
2	カルフォルニア工科大学	35	東京大学
2	ハーバード大学	54	豪州国立大学
4	スタンフォード大学	57	モナッシュ大学
5	ケンブリッジ大学	58	シドニー大学
5	マサチューセッツ工科大学	61	京都大学

(出典：「The Times Higher Education World University Rankings 2022」より当館作成)

東大とコロンビア、スタンフォード、ワシントン州立大学で勉強し、東大公共政策大学院や中央大学法学部などで教鞭を執ってきた私の経験からしても、豪州のいくつかの大学は自信を持ってお勧めできます。

5. 育てたい「豪語」

日本の外務省では、アメリカで英語を研修した人間を「米語」組、英国で研修した人間を「英語」組と称しています。従来から英語を習得する場合、大抵は米国か英国の大学院や大学に留学し、豪州やカナダやニュージーランドに留学する例は極めて限られてきました。

しかしながら、日豪関係がめざましい勢いで進展し、また、インド太平洋地域の主要メンバーたる豪州の大学にはアジア各国からの留学生も多数来ていることを踏まえれば、豪州のしっかりした大学で研修する人を増やすことが必要かつ適切と考えます。時宜に適しているとも、言えましょう。

豪州で英語を学ぶことは、語学の習得にとどまらず、豪州の人、社会、歴史、文化、そして日本との関係を学び考察することに繋がるからです。



より多くの「豪語」組の誕生を願って

「私の英語は豪州仕込み」と豪語する「豪語」組（笑）の誕生を待望しています。

山上信吾